

高齢者が活躍する留学生オンライン日本語指導システムの開発

倉敷芸術科学大学 産業科学技術学部 経営情報学科 小山 悦司 (株) 両備ヘルシーケア

Keywords : 産学連携、一億総活躍社会、非漢字圏留学生、オンライン日本語 (漢字) 指導

1. 研究目的

非漢字圏留学生に対する高齢者 (施設入居者) の日本語学習支援により、それぞれが求める語学力の向上と生きがい創出を同時に達成するICTを活用した高齢人材活躍モデルの構築を目指す。

2. 留学生プラチナ・サポート事業ーオンライン日本語指導システムー

倉敷芸術科学大学では、東アジア、東南アジアを中心に各国から留学生を受け入れている。留学生の出身国は、これまで大半を占めていた中国から、最近ではベトナム・ネパールなど非漢字圏の比率が高まる傾向がみられる。非漢字圏留学生の増加に伴う日本語学習指導法の工夫・改善は、全国の日本語教育関係者に共通した喫緊の課題となっている。


特に問題となっているのが、非漢字圏留学生の日本語指導のあり方、とりわけ漢字学習の指導である。漢字に対して苦手意識を持つ留学生が多く、担当教員は悪戦苦闘の毎日を送っている。このような課題の解決に向けて、普段から「漢字に親しみ、漢字を楽しむ機会」を増やすことが、漢字能力の向上に不可欠であるとの結論に達した。

そこで、漢字に接する機会を増やすために、インターネット (Skype) を活用して、入居者 (高齢者) が留学生の漢字学習を支援する事業を開始した。本事業は、(株) 両備ヘルシーケアの運営する老人ホームの全面的な協力を得て実現した産学連携の取組である。事業名である「留学生プラチナ・サポート事業」のプラチナは、高齢者の生きがいと輝きの創出を意味している。一億総活躍社会の政策動向や厚生労働省の「プラチナコミュニティ構想」にも合致した事業である。

2016年4月から試行を開始し、①高齢者には使い易くて疲労感が少なく、②留学生には学習支援効果の高い、インターフェースおよび学習支援プログラムの開発に取り組んできた。

表1 施設側の意義とメリット

表2 大学側の意義とメリット

| | | |
|---|---|---|
| <p>意義・目的 施設での余暇を利用して、未来を担う若者の学習支援を通して交流し、社会とつながり社会に役立つ存在として、生き活きと充実した日々の生活を送る。</p> |  | <p>意義・目的 漢字に対して苦手意識を持つ非漢字圏留学生が「漢字に親しみ、漢字を楽しむ機会」を増やし、漢字能力を中心とした日本語能力のさらなる向上を図る。</p> |
| <p>内容・方法 両備ヘルシーケアにより選出された入居者が、施設内のスカイプを利用して、非漢字圏留学生に漢字の読み方や書き順など日本語学習の支援を行う。</p> | | <p>内容・方法 2016年度は、ベトナムの留学生を対象にゼミナールの授業外学習 (補充学習) として試行し、改良を加えて17年度からネパール、パキスタン等に拡大予定。</p> |
| <p>期待される成果 入居者が若者との交流によりプラチナのように輝き、社会に役立つ存在として貢献する「一億総活躍社会」の先駆モデルを提示することができる。</p> | | <p>期待される成果 非漢字圏留学生の急増に伴い日本語学習指導法の工夫・改善が求められている。プラチナ人材とICTの有効活用は指導法開発の新機軸として期待される。</p> |

3. 応用先

大学教育はもとより学校教育においては、地域社会の専門人材の積極的な登用が求められている。超高齢社会を迎えて、ICTを効果的に活用し、高齢者の有する豊富な経験や実績をキャリア教育・補充教育などの支援に活かすことにより、高齢者の生きがい創出やQOL向上が期待できる。

連絡先 TEL: 086-440-1157, FAX: 086-440-1157, E-mail: koyama@las.kusa.ac.jp